

研究報告書
平成30年度：B課題

2021年 6月 1日

公益財団法人 がん研究振興財団

理事長 堀田知光 殿

研究施設 横浜市立大学附属病院

住 所 横浜市金沢区福浦 3-9

研究者氏名 福田 真佑 

(研究課題)

周術期がん患者の入院前待機時期における抑うつ状態の有無と
術後の Quality of Recovery の関連

平成31年1月24日付助成金交付のあった標記B課題について研究が終了致しましたので
ご報告いたします。

【研究課題】

周術期がん患者の入院前待機時期における抑うつ状態の有無と術後の Quality of Recovery の関連

【目的】

日本におけるがん罹患患者数は増加の一途を辿っており、その多くが手術を経験する。周術期にあるがん患者は、手術に対する不安に加え、がんの再発や転移、社会的役割の変化等多くの精神的負担を抱え、気分や感情の安定さを欠いた状況にある。当教室で周術期がん患者に抑うつ状態の実態調査を行なった結果、入院前待機時期の抑うつ群は 45.5% で、そのうち 62.5% が術後まで抑うつ状態が継続していることを明らかとなった。周術期の抑うつ状態は、QOL の低下や入院期間の延長、社会復帰の遅れなどにも繋がるため、入院前待機時期に抑うつ状態のがん患者に精神的支援をすることは喫緊の課題であるといえる。周術期がん患者の抑うつと QOL に関する先行研究では、消化器がんや乳がん患者など、術前に抑うつ状態にある患者は、術後の QOL が低下することが明らかとなっている。しかし、これらの研究はがん部位別の患者を対象としており、全ての周術期がん患者を対象とし、抑うつと QOL の関連を明らかとした研究はない。また、QOL の評価は、健康関連 QOL、すなわち一般的な QOL の評価であり、QOL の中でもとりわけ術後に問題となる、麻酔および手術からの心身の回復の質 (Quality of Recovery : QOR) を評価した研究は皆無である。さらに、これまでの先行研究では手術直前に抑うつ状態の評価を行っているが、抑うつ状態への心理的介入を実施するために、時間的猶予のある入院前待機時期に着目した研究はない。周術期がん患者の入院前待機時期の抑うつ状態の有無と術後 3 日目までの回復の質との関連について明らかにする。

【方法】

本研究は単施設前向きコホート研究であり、全身麻酔で手術を受ける初発がん患者を対象とし、入院前待機時期と術後 3 日目の 2 時点において、自記式質問紙調査を行った。抑うつ状態の評価は Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS) を用い、カットオフ値で 2 群（非抑うつ群と抑うつ群）に分類した。術後回復の質の評価は The quality of recovery score (QoR-40) を用い、2 群間において QoR-40 の変化率（5 つの下位尺度：快適さ、感情、身体能力、支援、痛みを含む）を比較した。また、回復の質に対する関連因子を抽出するために重回帰分析を行った。

【結果】

分析対象者は 173 名であり、非抑うつ群は 106 名、抑うつ群は 67 名であった。QoR-40 の変化率は 2 群間とも同程度に負に下降していたが、特に「感情」の変化率については抑うつ群で変化がなかった。回復の質の正の関連因子は「胸部（乳房・肺）のがん」であり、負の関連因子は「頭頸部がん」であった。抑うつ群の回復の質は、入院前待機時期から術後 3 日目まで、低い状態が続いている。

【総括】

周術期がん患者の入院前待機時期における抑うつ状態の有無と術後 3 日目の回復の質との関連について以下のことが明らかとなった。

- 1.周術期がん患者の術後 3 日目までの回復の質は、入院前待機時期からの抑うつ状態の有無にかかわらず同程度に負に低下した。
- 2.入院前待機時期に非抑うつの患者は術後 3 日目までの QoR-40 の「感情」の変化率が抑うつ患者よりも有意に低下した。一方で、抑うつ患者の QoR-40 の「感情」の値は術後 3 日目まで低い状態だった。
- 3.周術期がん患者の術後 3 日目までの回復の質に対する負の関連因子は「頭頸部がん」、正の関連因子は、「胸部（乳房、肺）のがん」であった。

4.入院前待機時期に抑うつ状態にある周術期がん患者は、術後3日目まで回復の質が低い状態だった。

5.周術期がん患者の入院前待機時期の抑うつ状態の患者は38.7%存在し、そのうち術後3日目まで抑うつ状態が継続していた患者は71.7%であった。

以上のことより、周術期がん患者に対しては、入院前待機時期から抑うつ状態の有無に着目し、抑うつ状態があると術後3日目まで回復の質が低いことを見据えて精神的支援をしていく必要性が示唆された。

今後、入院前待機時期の抑うつ状態の有無と術後1ヶ月後の回復について検討していく。

【謝辞】

本研究の遂行にあたり、療養中にも関わらず、快く研究にご協力いただきました対象の皆様、多大なるご支援を賜りましたがん研究振興財団の皆様に厚く御礼申し上げます。